

森林が泣いている。。。

—あなたも、森の叫びが聞こえますか?—

第19回ジュニアチャンピオン大会(2002/1/20)で実施!

「森林づくりボランティア体験イベント～みんなで創ろう!! 綺麗な森・豊かな森・未来の森～」報告

若手オリエンティアの育成の舞台を永年提供しつつ、初心者に優しい大会を開催してきた『多摩OL ジュニアチャンピオン大会』。今年は、初心者・若手の育成に加えて、オリエンテーリングの競技場である森林まで育成してしまう!!、という「森林づくりボランティア体験イベント」が実施されました。

そこで、今回はそのイベントの趣旨とともに、当日の流れ、そして主催者・参加者等の声をレポートします。

『“ジュニアチャンピオン大会”では何があった?』

「ジュニアチャンピオン大会」では、競技場として利用させて頂く「平井」の森”において、森林へのささやかな恩返し、また私達だけでなく次世代のオリエンティアも今後永くこの地でオリエンテーリングを楽しめる様に、“みんなで創ろう!! 綺麗な森・豊かな森・未来の森”というキャッチフレーズのもとに、『森林づくりボランティア体験イベント』が開催されました。

『どんな森林づくり体験イベントだったの?』

今回は、30年間育てられてきたスギ・ヒノキの人工林をフィールドとして、森林管理作業の一つである「間伐(かんばつ)」という作業体験を行いました。

作業内容は至って簡単!! 混み合っただ鬱蒼とし、地表に光が届かなくなった大自然の森林の中で、木こりになった気分、天に向かってどっしり構えて生えている高さ10~15m程の木を、自らの手でノコギリを使って“どさ〜ん!!”と切り倒してあげる作業でした。



今回の作業地。スーパーAに見えるものの、木々が細く土壌も薄く脆弱な林である、との事でした(曲がった木もチラホラ)

森林管理作業を身をもって体験できた事を純粋に楽しんだり、切り倒す爽快感に感動したり、はたまた親子で一生懸命お土産のヒノキの円盤作成を楽しんだりと、皆さんの生き生きとした姿や笑顔がとても印象的でした。しかし、長年放置されていた森林であったが為に四苦八苦する所も少なくなく、森林を管理する事が如何に大変か、そしてオリエンテーリングで使用する森林を全て管理するとなると、如何に多大な労力が必要となるか、という事を改めて痛感している様でした。



手入れが遅れると脆弱な林になってしまい、台風や大雪などで広範囲がなぎ倒されるなどの被害を受けてしまう・・・

『森林づくりをしないとどうなってしまうか...』

なお、この間伐作業をしてあげないと、木々が混み合っていると、森林の健康を保つための基本要素である「光」「水」「養分」が十分な量が与えられなくなります。さらに、地表まで光が届かなくなると下層植生が生えなくなり、肥沃な土壌が雨水で流亡してしまいます。すると、個々の樹木が弱ってしまい、森林全体もヒョロヒョロの「モヤシ林」になってしまうのです。そうすると、上の写真の様に、大雪や台風といった自然災害時に共倒れに

なってしまうのです。

つまり、“木を倒す爽快感を楽しみながらも、活力ある森林を復活させるお手伝いが出来てしまう”のが、今回実施した「間伐体験」でした。

* * *

さて、それではまず、このイベントを開催まで漕ぎ着けた主催者の声を聞いてみましょう。

* * *

ＪＣ大会 主催者の声
大会実行委員長「中村成伸さん」

「森林イベントが生まれるまで・・・」

第19回ジュニアチャンピオン大会の準備が本格的に始まった10月、アエラ(AERA, 2001.10.01号)にも「森林を守りたい人々」として森林ボランティアを特集され、新聞にも森林ボランティアの記事が載っていた。

そしてその次の日、多摩OLの宴会で「森林育林体験イベント」の話があがった。即座にやりたいと思った。「どのようにしてスーパーAの森が出来上がるのか」、ということもあるが、何より「木の倒れる音」を聞いてみたい好奇心が沸いた。運営のメンバーも賛成だった。

それから徐々に話が具現化されていき、プロジェクトが始まった。問題は、何時やるかだ。イベントは通常最低2時間かかると言う。議論の末、大会前日に多摩のメンバー、大会当日に参加者、時間は1時間と言うことでまとまった。また、協力してもらえるボランティアグループも決まった。チラシも作ってプログラムに同封した。



「オレ、ヘルメット似合ってるかなあ?」「元々ヘルメットヘアーだから超お似合いだよ!・・・」「・・・。」と会話しているようかとは別として、現場作業はやっぱり「安全第一」ですね。

「運営者も準備の合間に森林イベント!!」

さて、大会前日準備の合間に行われた運営者のイベント体験は、かなり慌しいものであった。試走を終えるとその足でイベント会場へ。会場は、一見健全に見えるAの森。しかし、この場所で間伐が必要だと言う。

人工林のでき方、木の伐採方法を聞く。なるほど、ここは木と木の間隔が狭いのだ。

「バツッサ～ン!!」

木が倒れる。その音は想像以上だ。山全体に響き渡る感じだ。1人1本見当伐採し、前日イベントは終了した。中には、ハッチを無くすべく枝打ちされた枝を集めたり、丁寧に木を整えるメンバーもいた。そして、駆け足で会場へ向かい、機材搬入・・・

「大会当日も森林イベントは大盛況!?!」

果たして、冬の時期である上に、レースの終了後に大会参加者は森林イベントに参加してくれるだろうか・・・

そんな心配は杞憂に終わった。30人もの方がイベントに参加してくれた。緑の募金も続々集まった。その額7,789円。皆、一声かけて募金してくれる。森づくりの大変さ、大切さを皆知っているのだ。

1人のクラブ員の提案から始まったこのイベント、クラブ員、イベント参加者は貴重な体験をしたのではないが。森があつてのオリエンテーリング、頭ではわかっていたことを、実際森づくりの一端を担ったのだから。

最後になりましたが、協力いただいた森林ボランティアグループ特定非営利活動法人 花咲き村、森林から生まれる大波ネットワークの皆様、ありがとうございました。

* * *

さて、それでは実際イベントに参加した参加者の声を、少しだけ紹介してみます。

* * *

参加者の声(大会運営者)
多摩OL「富田吉郎さん」

森林ボランティア体験イベントで感じたこと

その1. 森林ボランティア体験は爽快!

率直な感想、まず楽しい。自分の腕とノコギリだけで樹齢30年の杉や檜がゆっくりとスローモーションで倒れる。しかもプラン通りの方向へ木が倒れた時の感覚は、あたかも直進がピタリ決まった時の感触に似て爽快だ。そして、今度は街角の電柱でも切り倒して見ようか、という気にさせる。今時木の電柱なんて無いとは思うけど。

その2. 森林は大自然じゃない?

オリエンテーリングは大自然の中を地図とコンパスだけで走り抜ける競技? いいえ大部分の森林は木の畑なんだそうです。つまりオリエンテーリングは大きな木の耕作地の中をうろつき回っているって事に・・・なるのかなあ?

とにかく、森の成り立ちや仕組みというのは、オリエンティアにとっても大切な知識だと思う。まだの参加した事の無い方は機会があったら積極的に体験してみたいかがでしょうか?

もちろん私ももう一度、今度はもう少しゆっくり体験してみたいと思います。

参加者の声（大会参加者）
上尾OLC「三好暢子さん」

森林づくりボランティア体験に参加して

「植林した木を切るのは、
畑の作物を収穫するのと同じことです」

今回森林作りボランティア体験に参加して、最も印象に残ったのはこの言葉でした。

山で伐採風景を見るたびに、自然破壊みたいな気がしてイヤな気分になっていた自分が間違っていたということ、そして木を育てることが、想像していたよりもずっと手間暇のかかることなのだ、今回はじめて知ることが出来ました。

実際、ほんのちょっと手伝っただけでも、翌日筋肉痛になってしまうほど、山の仕事は本当に大変でした。

* * *

では最後に、本イベントの進行役を担った担当者の方から、本イベントの趣旨やメッセージを掲載します。

* * *

森林イベント 担当者の声
イベント進行係「宇野浩一さん」

「1. テレインとして使用する森林の成り立ち」

我々オリエンティアが大会で使用するテレインは、終戦直後まで地元住民によって炭や薪を生産したり農業用の肥料を採取することによって管理されてきた薪炭林・農用林と呼ばれる広葉樹の林であったり、有用材の生産を目的としたスギやヒノキなどの針葉樹の林であったりします。

これらの林は、戦後の高度成長に燃料・建築用材として、あるいはパブル期の様々な乱開発によりその多くが失われるとともに、管理することすら忘れられた存在となっています。我々が、“Cヤブ”だ“Dヤブ”だと呼ぶヤブも、そもそも林がちゃんと管理され、有益に利用されていれば、悪くともBの状態に維持されているところなのです。



枝や木に引っかからないように、どちらの方向に倒すかはオリエンテーリングと一緒に頭を使う大事な作業です。果たしてこのグループは上手く倒せたのかな？

現在、他の第一次産業と同様に林業も深刻な経営危機に陥っており、オリエンティアが望むAの林も少なくなっています。しかし、パブル期のバカげたゴルフ場開発ラッシュもなくなり、開発を免れた森林ががらうじて残されています。

これらの貴重なテレインを残すためには開発に反対することも重要でしょうが、森林の価値を高め、森林として利用できる状態に保つこともさらに重要だといえます。



親子で力をあわせて、共同で間伐作業に励んでいるグループもありました。何とも微笑ましい風景なんだろうね。

「2. 森林ボランティア活動と体験イベント」

森林ボランティア活動は管理されていない、あるいは管理できない森林で、下草刈り、つるきり、枝打ち、間伐などの作業をまかなう活動であり、近年微力ながら市民運動としての実績を上げてきています。

今までお世話になったテレインへの恩返しとしてや、今後も快適に使用させてもらうために、さらには地元との交流を深めるためにも、オリエンテーリング競技者に何か力になれないだろうか。そのとっかかりが、まずは森林をつくる林業を体験してもらうこと、つまり今回企画された「森林づくりボランティア体験イベント」でした。

「3. JC大会での体験イベント」

これまで何度かオリエンテーリング界でも、埼玉・栃木・愛知で「森林づくりボランティア体験イベント」が開催されてきました。そして、このイベントを多摩OLでも今回の「第19回ジュニアチャンピオン大会」で初めて実施することとなりました。

当初、イベントをいつ、どういう形で導入するのか、人員は？ 森林ボランティアのメンバーとの連携は？ という疑問がたくさんあり、うまくいくのが非常に心配だったのですが、そこは森林ボランティアイベントのベテランである多摩OL某会員の手腕で見事に形をなしたのでした。今回の試みは、大会前日も多摩OLのクラブ員を対象に行われ、当日のイベント参加者だけでなく、クラブのメンバーにも我々オリエンティア

がトレインとして利用させてもらっている森林の実情と、森林作業の大変さを、その体験を通して理解するきっかけとなったと思っています。

特に今回は、開催地 O-MAP「平井」近隣で実際に森林ボランティア活動を行っている団体「花咲き村」と「大波の会」のみなさんのご協力を得て、共同でイベントを開催したことに意義を感じています。実際にオリエンティアは森林作業(間伐)を通して林業を肌で感じ、指導に当たったボランティアの方もその多くがオリエンテーリングを体験してその楽しさを知ってもらい、お互いにそれぞれの立場を体感したことで歩み寄り、とりあえず成功したのかな実感しています。

今後の同様なイベント開催の可能性が示せた事で、新た



今回「森林づくりイベント」で間伐体験の場として使用した森林は、各クラスのコース終盤に通過した区域に隣接する地域で実施されました。

今回の森林イベントで間伐作業を実施した森林

至平井小学校

なオリエンテーリングの発展に繋がれば嬉しいことです。

「4. 今後の体験イベントおよびボランティア活動」

運良く非常に条件が揃った「平井」でのイベント開催でしたが、今後も機会のあるごとに開催できたらと思います。他の大会でも人員の余裕と若干のノウハウがあれば可能です。メリットを感じていただければ、導入の検討をして貰いたいものです。また、森林の現状と成り立ちを知り、さらに貢献を考えるオリエンティアには、森林ボランティア活動に参加してみることもおすすめします。

* * *

以上で、本レポートは終了です。最後に多摩OLからの参加者の皆様への報告とお礼を紹介して、今回のレポートを終了したいと思います。

「緑の募金」にご協力頂き、ありがとうございます!!

本大会会場では、東京の森林を末永く守り育てるために、「緑の募金(緑の羽根募金)」をお願いしておりました。

この募金は、この森林イベントをサポートして頂いた地域の森林ボランティアグループをはじめとする、東京都内の各地で精力的に活動をされている「森林づくりボランティア」の諸団体等への助成などとして活用されますが、その合計金額は「7,789円」にもなりました。

今回皆様からお寄せ頂きましたこの募金は、東京都緑化推進委員会を経て、東京都内の「森林づくりボランティア」の諸団体等への助成として有効に活用されます。これによって、作業上必要となる資機材等が購入され、新たな森林づくりボランティア活動が生まれたり、既存の森林ボランティア活動がさらに活性化し、より多くの森林が「綺麗な森・豊かな森・未来の森」となるべく手入れされていく事に役立つこととなりました。多くの皆様の温かい気持ちに、改めて心から感謝申し上げます。



緑の募金のシンボル・どんぐり君

【「森林づくりボランティア体験」イベント概要】

主催: 多摩オリエンテーリングクラブ

協力: NPO 法人「花咲き村」、森から生まれる大波ネットワーク(地域の森林ボランティア団体)

場所: 東京都西多摩郡日の出町 O-MAP「平井」内

参加者: 子ども達から大学生、そして年配の方々まで、予想を大幅に上回る「32名」が参加して下さいました。

内容: (20日)

13:00 地元森林ボランティアグループによる森林づくりの意味や今回行う間伐作業の説明・デモンストレーション

13:20 3人程度のグループに分かれて「間伐体験」。狭いエリアでしたが、活力ある元気な森林を創りあげることが出来ました。(～14:15)

今回は、サポートして下さいました「花咲き村」「大波の会」の皆さんをJ.C大会に招待しており、皆さんOLを大満喫されていた様でした。これも新たなオリエンテーリングの可能性かも知れませんね。

多摩OL ジュニアチャンピオン大会 報告書 : 多摩OLホームページ <http://www.orienteing.com/tama/>
 森林ボランティア活動 および 緑の募金 : 国土緑化推進機構ホームページ <http://www.green.or.jp>
 オリエンティア森林育林体験研究会 : kimata@cone.ne.jp ご意見・ご感想などご自由にお寄せ下さい。